

## (2) 日程及びコースの詳細

1 期日： 平成 29 年 6 月 3 日 (土) ～ 6 月 5 日 (月)

2 会場： くじゅう山系 (竹田市、九重町)

3 日程及びコース

### ◎6月3日(土)

#### 1号車 (大分工業、大分上野丘、別府鶴見丘)

09:00 大分工業高校・出発 (貸し切りバス)  
09:00 大分上野丘高校・経由  
10:20 別府鶴見丘・経由  
11:30 九重青少年の家・着 (バス下車)  
11:45 監督会議・審判会議・昼食  
13:30 開会式・ペーパーテスト・各種審査  
16:00 設営審査 (九重青少年の家・キャンプ施設)  
21:00 就寝

#### 2号車 (竹田)

10:30 竹田・出発  
11:30 九重青少年の家・着 (下車)

### ◎6月4日(日)

04:00 起床		10:55 北大船山
06:00 九重青少年の家・発		11:45 大戸越 (昼食)
07:00 長者原登山口	}	12:55 平治岳
08:10 雨ヶ池越		13:25 大戸越
09:00 坊ガツル	}	13:55 大船林道方面分岐
(BCD 隊はメインザックをデポ)		14:25 坊ガツル 着
10:00 段原		21:00 就寝
10:30 大船山	}	
10:50 段原		

※チーム行動②では、大船山頂で行動隊による到着確認をする。

### ◎6月5日(月)

05:00 起床  
07:00 幕営地清掃  
07:30 坊ガツル 発

09:30 長者原登山口 着 (表彰準備)	}	パーティー行動 (監督・選手)
10:00 表彰式・閉会式		
10:30 長者原登山口 発 (貸し切りバス乗車)		

#### 1号車 (別府鶴見丘、大分上野丘、大分工業)

11:40 2号車 別府鶴見丘  
12:10 2号車 大分上野丘  
12:40 2号車 大分工業

#### 2号車 (竹田)

11:30 1号車 竹田 着

## 〈第65回大分県高等学校総合体育大会登山縦走競技 予報〉

第65回大分県高等学校総合体育大会登山競技のコースは、くじゅう山系の大船山(たいせんざん) 1786.2m を中心としたコースが設定されている。今回のコースについて具体的に触れる前に、くじゅう山系の山々についての理解を深めておきたい。

### ①くじゅう山系の山々

くじゅう山系は大分の山々の代表であるだけでなく九州の岳人にとってメッカとも言える山系である。九州本土最高峰である中岳1791mをはじめとし、1700m級の山々を持つこの山系は「九州の屋根」と呼ばれている。熊本県の阿蘇山系とあわせて「阿蘇くじゅう国立公園」を形成している。阿蘇山系が雄大な外輪山とカルデラ火山であるのに対し、くじゅう山系はトロイデと呼ばれる鐘状火山の集合体である。たおやかな山容とバラエティに富んだ登山ルートを持つくじゅう山系は登山者に人気の山系である。特に初夏にはミヤマキリシマを目当てに毎年多くの登山者が訪れる。

### ②大船山(たいせんざん、1786.5m)・平治岳(1643m)

久住山や中岳山頂から大船山を眺めるとまるで大きな船をひっくり返したように見える。『豊後国志』によれば、その様子から大船山と名付けられたという。くじゅう山系の山の多くが鐘状火山であることは前述した通りであるが、大船山は山系で唯一の成層火山である。また、頂上直下に御池(おいけ)、米窪(こめくぼ)、段原(だんばる)の3つの噴火口を持つ複式火山である。

大船山、段原、北大船山(きたたいせんざん)、平治岳(ひいじだけ)一帯はミヤマキリシマの群生地で国の天然記念物である。大船山山頂は別名で「国見(国観)」「くにみ」とも呼ばれており、全方位360度の大展望は圧巻である。

### ③大会コース(大会2日目のコースのみ)

長者原(ちょうじゃばる)登山口から入山する。駐車場横の九重レストハウス裏から白水川(はくすいがわ)を渡り、九州自然歩道を進んでいく。出迎えるのはタデ原(ばる)湿原である。2日目の幕営地でもある坊ガツルとともに2005年にラムサール条約に登録され、木道がきれいに整備された。湿原を過ぎると道は山際にせまり自然研究路が始まる。

ケヤキ、ミズナラ、ブナ、カエデなどの樹林帯の道を登っていくとやがて道が平坦になったと思うと雨ヶ池(あまがいけ)に到達する。クサボケ、ハルリンドウ、ミヤマキリシマ、イブキトラノオ、マツムシソウが楽しめる。ここまで1時間強といったところか。

雨ヶ池越を目指して木道を進むと右手には三俣山(みまたやま)北峰からの尾根が迫る。前方には大船山、平治岳、坊ガツルが望まれる。コースは下りとなり、アセビ、リョウブ、ミズナラ、コミネカエデの樹林帯を抜ければやがて坊ガツルが眼前に広がる。鳴子川(なるこがわ)を渡渉し、坊ガツルキャンプ場へと向かう。トイレ、手洗い場、避難小屋がある。避難小屋まで進むと道は二手に分かれるが、右のコースをたどり段原を目指す。ミズナラ、

コミネカエデ、リョウブなどの茂る樹林帯の中を高度をかせいでいく。5合目を過ぎるあたりから軽石が多くなりザレ場となる。足下が滑りやすいので気をつけたい。ここからもうひとふんばりで段原（1680m）に到着する。米窪火口壁に沿って進み、山頂直下の急坂を登れば大船山山頂である。

大船山山頂から段原まで戻る。坊ガツルへは下りずに直進し、北大船山1706mを経て、段原火口原を進むとやがて大戸越（うとんごし、1460m）への下りの道と出会う。ここから大戸越に向けて下り、大戸越に到着したら目の前の平治岳山頂を目指す。大戸越は平治岳と北大船山の鞍部にあたる。山腹に付けられた二条の道はミヤマキリシマのシーズン中の渋滞緩和策で、登り専用、下り専用とに、区別されている。

大戸越から約20分の急登で南峰に到着する。南峰から10分ほどで平治岳本峰だ。平治岳は坊ガツルから眺めるときれいな双耳峰である。大戸越まで戻り、坊ガツルの避難小屋を目指してミズナラやリョウブの茂る樹林帯を約1時間、南東方面に下れば坊ガツルである。